



若手研究者を支援するには

How can we encourage young researchers?

山梨大学大学院総合研究部生命環境学域

鈴木保任

私事であるが、学内の共通教育科目の教養教育部会の部会長という役割を仰せつかっている。教養教育部会は人文、社会、自然科学、人間・健康科目の開講を担当している。山梨大学は医学部キャンパスが離れていて医学科、看護科の学生が受講できる曜日が限られることと、医学科のカリキュラムが国際基準に準拠した実習重視のものに変更されたことが相まって、今年度は分野別の科目の開講日、時間、定員などの大きな見直しが必要であった。以前は比較的自由に非常勤の先生を雇用し、このような変更に対応することもできたが、運営費交付金が削減され続けており、新規の非常勤講師の採用が困難になっている。

また、報道されているように、常勤の職員の採用、昇任が凍結されてしまっている国立大学法人が多数あるようである。山梨大学も当初は教授の退職後1年間は教員を補充しないということであったが、その期間が2年間に延び、さらには3年にしようという話も出ているようである。また助教の新規採用については、任期付きのみとするようである。

このような困難な状況下で、新たに採用されている若手研究者の方々を見ると、自分が若手だった頃を顧みて恥ずかしくなるような優れた方が多い。しかし、任期制があるかどうかに関わらず、雑用が増えていて、以前よりも研究に専念できる環境ではないように見える。講座制の良し悪しについては議論があるのは承知しているが、相談できる上司の存在、研究資金の融通、ゼミの効率的な運営などができなくなってしまったことは、負の側面であろう。

さて、ではフローインジェクション分析研究懇

談会あるいは会員として、何か若手を支援する手段があるだろうか。他の研究懇談会や学会でも広く行われている、学会発表に対する表彰や、若手研究者の表彰はすでに実施されている。これ以外に即効性がある有効な方法というのは、残念ながら思いつかない。ここで精神論を持ち出すのははなはだ不適切で恐縮であるが、地道な活動以外の手はないようである。

これもまた私事ではあるが、当方がフローインジェクション分析研究懇談会に入会したのは、分析化学会の年会か討論会で、フローインジェクション分析に関する発表をした時に酒井忠雄先生とお話する機会があり、「そりゃ研究懇談会に入らなきゃいかん」とおっしゃられたのがきっかけだったと記憶している。しばらくは幽霊会員のような状態が続いていたが、この研究懇談会の和気あいあいとした雰囲気になんか惹かれて少しずつ様々なイベントに参加するようになってきた。また、諸先生方に様々なご助言をいただいたことにより、当方の流れ分析法の研究も少しずつ前進している。このようなきっかけをいただいたことに、大いに感謝している。次はわたしの番である。流れ分析に関連のありそうな若手がいたら積極的に声を掛けて入会してもらい、研究費を援助するのは無理だとしても、研究の助言をしたり、知り合いの先生を紹介したり、こまごまとした支援をしたいと考えている。些細なことではあるが、恩返しと懇談会の発展のために。